

ミクロ経済学		講義	准教授 小松原 崇史	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナン スコースの専門選択科目, 経営・経済コースの専門選 択科目, 教職科目		科目ナンバリング	23222202 25320217

1. 授業のねらい・概要

ミクロ経済学についての基本的な考え方を説明する。経済に存在する一般的な法則を見出そうとすることが、ミクロ経済学の目指していることである。本科目の履修にあたっては、「経済学基礎」を履修済みであることが望ましい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行う。講義の理解を深めるため、問題演習を行うこともある。学生の理解度に応じて、以下の授業計画は、多少変更する可能性がある。

3. 授業計画

1. ミクロ経済学とは	9. 貿易の決定要因（貿易がないときの均衡）
2. 消費者余剰（支払許容額）	10. 貿易の決定要因（世界価格と比較優位）
3. 消費者余剰（消費者余剰の測定）	11. 貿易による勝者と敗者（輸出国の利益と損失）
4. 生産者余剰（費用と受取許容額）	12. 貿易による勝者と敗者（輸入国の利益と損失）
5. 生産者余剰（生産者余剰の測定）	13. 貿易による勝者と敗者（関税の影響）
6. 市場の効率性（総余剰）	14. 貿易による勝者と敗者（貿易政策についての結論）
7. 市場の効率性（市場均衡の評価）	15. 後半のまとめと復習
8. 前半のまとめと復習	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習する。そのためには、毎週1、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

解答を試験終了後に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

ミクロ経済学についての基本的な考え方が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社、2019年）を使用する。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とする。守れない学生に対しては、直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求める。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。